

平成19年度経済動向試算（内閣府試算）について

平成19年8月6日
内閣府

最新の経済指標等を踏まえ、平成19年度の経済動向についての試算を行った。

我が国経済は、世界経済の着実な回復が続く下、企業部門・家計部門ともに改善が続き、民間需要中心の経済成長が持続することが見込まれる。消費者物価は、当初経済見通しを下回るものと見込まれる。ただし、原油価格や世界経済の動向等が我が国経済に与える影響には留意する必要がある。

なお、本試算は内閣府が独自に行ったものであり、政府経済見通しの改定といった性格のものではない。

(%, %程度, 対前年度比増減率 (注2))

	18年度 (実績)	19年度 (経済見通し)	19年度 (今回試算)
実質国内総生産	2.1	2.0	2.1
民間最終消費支出	0.7	1.6	1.8
民間住宅	0.4	0.2	0.2
民間企業設備	7.9	3.6	3.8
政府支出	▲1.3	0.3	0.4
政府最終消費支出	0.9	1.6	1.9
公的固定資本形成	▲9.6	▲4.3	▲5.9
外需寄与度	0.8	0.3	0.5
名目国内総生産	1.4	2.2	2.1
完全失業率	4.1	4.0	3.9
鉱工業生産	4.8	2.1	2.0
国内企業物価	2.8	0.7	1.4
消費者物価	0.2	0.5	0.0
GDPデフレーター	▲0.7	0.2	0.0

(注1) 我が国経済は民間活動がその主体をなすものであること、また、特に国際環境の変化には予見し難い要素が多いことにかんがみ、上表の諸計数はある程度幅を持って考えられるべきものである。

(注2) 外需寄与度と完全失業率を除く。

(注3) 試算に当たっては、既定の経済財政政策を基に以下の前提を置いた。なお、これらの前提は、作業のための想定であって、内閣府としての予測あるいは見通しを示すものではない。

① 為替：1ドル＝122.2円〔経済見通し時 117.3円〕

② 原油：65.8ドル/バレル〔経済見通し時 61.1ドル/バレル〕